

年間第13 主日の説教

金 大烈 神父 2009年6月28日(日)

《強く願う心》

おはようございます。

今日の福音(マルコ5・21-43)の話に入る前に、第二朗読の内容について皆様に少し分かち合いたいと思います。この第二朗読「使徒パウロのコリントの教会への手紙」(二コリント8・7、9、13-15)の内容はある意味、私達の具体的な生き方をパウロの説教として話されています。

イエス様は豊でありました、しかし自ら貧しくなりました。その理由は貧しい者の私達を豊にさせるためと、もう一つは私達がキリスト信者として他の人々の為に施しをする事はその相手を楽にさせて自分達が苦勞する事では無いとはっきりおっしゃいました。それはあなた方のゆとりを他の人に施すすれば、いつかあなたにゆとりのない時にその人々からのゆとりをもらえると云う内容です。そして私達が施しする事によっていろいろな欠乏に悩んでいる人々が補われるという内容が第二朗読に書かれています。

皆様、誰かを助けられる力をお持ちですか？ 質問します。「私は誰かを助けられる力を持っていると言う方、手を挙げて下さい。」わかりました。手を挙げなかった方は自分のことばかりで、ものすごく悩んでいますと言う方でしょうか？それとも逆に、自分は人に助けを貰わなければ生きて行けないと言う方でしょうか？ 結論から申し上げます。この世の中には誰かを助けられる力を持っていない人は一人もいません。寝たきりの人でも誰かを助けられる力を持っています。もう一度質問します。「私は誰かを助けられる力を持っていると言う方は手を挙げて下さい。」さっそく効果がありました。

皆様、私達は様々な経験で喜びを感じています。自分が経験した喜びの中で一番強い喜びは やりがい だと思います。やってよかった、会ってよかった、苦勞したけれどやってよかった等、自分らしくやってよかったというやりがい、いつもやりがいを求めてください。そしてやりがいがあれば生きる意味がはっきりします。なぜ信仰の生活をしているかはっきりわかります。しかし、やりがいというものは必ず振る舞いを前提しています。振る舞いがないやりがいはありえません。やりがいを求める為にはどのような振る舞いが必要でしょう。それは皆様に神様から生まれる前から与えられた賜物である良心という心です。心がこれをすればあなたは幸せになれるという声を聞こうとしなければなりません。

皆様、最近経済のことで悩んでいる兄弟姉妹が沢山います。皆様によって経済的に困っていて助かった人がどの位いらっしゃるでしょうか？手をのばしている人を救った事が何回あるでしょうか？自分の事、明日の事、明後日の事ばかり考えて心の余裕もゆとりが無い生活しているのではないのでしょうか？明日、明後日の事は考えないでイエス様は、はっきりおっしゃいました。これは無計画に生きるようにと言う話ではありません。根本的な事は神様が満たして下さいます。あなたがたを必要としている人がいれば、明日の事を心配しないで、明日の分をあげて下さいというイエス様の話です。いつも私達は夕食を何を食べよう、明日はどうしようと心配ばかりです。心配というものと喜びは全然関係ありません。

今まで自分の力で生きて来たわけではなく、いつも神様が満たして下さいましたから生きている、これからもそのようにして下さいという依り頼む心が何よりも必要なのではないのでしょうか。信じて下さい、神様は必ず守って下さる。その心が強くあれば今、頑張っている人、悩んでいる人を見たら、自然に自分の手が出ます。そして「何か助けになる事は無いでしょうか？」と聞こうとする心が生じます。悲しい事ですが、本当に少ない人々の富によって、沢山の子ども達が飢え死んでいる事が事実です。私達は何が正しく、間違っているかよく知っています。正しいと思われることを実行して下さい。

太田教会もいよいよ経済的に困っている人が増えています。福祉部会を作って動いています。皆様もあたたかい心で協力していただき、今まで活動していますが、今まで以上に困っている人が増えてくると思います。もう少し皆様の心を表してください。例えば9歳の子供のいるある国の家族で、仕事も無くお母さんが病気になり、手術も必要ですが保険も入っていない為心細い気持ちでいます。もちろんカトリック信者です。その家族だけで無く、いろいろな人が困っています。とにかく私達はその人達と分かち合う事が出来れば、本当にイエス様も喜ばれるのではないのでしょうか。助ける事が出来ることそれは恵みです。私達は死ぬ時まで誰かの為に生きる事が出来ます。その役割を皆が自分のものにして生きましょう。

今日の福音を簡単にお話します。

福音の中のヤイロの娘が癒された話と読まなかった箇所ですが、12年間出血に悩まされた女性がイエス様の服を触って癒された話、この二つの話で共通した所が三つあります。

一つ目は懇切な心、即ち、ものすごく強く願う心でした。皆様、考えてみてください。皆様の娘や息子が死にそうになったらどのような心になるのでしょうか。自分の命をかけて救いたいと思うでしょう。簡単な物語のように見えるかもしれませんが、絶対に軽い話ではすみません。自分の子供が死にそうだったら心配でいてもたってもいられないでしょう。自分の命と引き換えに子供の命を助けたいという強い願いです。12年間出血した女性も同じです。どれ程辛い思いをしていたのでしょうか。そのように秘跡の力を求める私達、必ず叶えられなければならないという心で強く願って下さい。懇切に願って下さい。切迫な気持で願って下さい。そうすれば聞いて下さいます。

2番目の共通点はこの方に願えば必ず聞いて下さるという信仰です。

3番目の共通点、それはやはり癒された事です。

皆様今日の福音を通して、もう一度私達の信仰を振り返ってみましょう。本当に祈る時に必ずこれは神様が聞いて下さらなければいけませんという強い心で祈ってください。そして私が強く願えばイエス様は必ず聞いて下さるという強い確信が必要です。

この二つの事を今日の福音の言葉として毎日考えて生活してみましょう。

ありがとうございました。